

目次

99	『方便心論』の論理と立場……………	木村俊彦……………	一
100	『俱舍論』における「アビダルマ」の意味について……………	立川武蔵……………	三
101	日本における『金七十論』の注釈書 ——快道撰『金七十論藻鏡』を中心に……………	興津香織……………	二〇
102	複数の唯識説——『大乘莊嚴經論』の例……………	芳村博実……………	二四
103	『大阿彌陀經』における阿羅漢の般涅槃と菩薩の往生……………	佐々木大悟……………	三三
104	浄影寺慧遠の声入・色法教体説……………	岡本一平……………	三六
105	中国仏教における六道觀の一考察——死後の世界としての六道……………	鈴木あゆみ……………	四三
106	『法華經』方便品における菩薩行……………	早川貴司……………	四六
107	道宣の種子戒体説の検討……………	小谷知弘……………	五〇
108	吉藏『仁王經疏』について——釈二諦品・「三種仏性説」を中心に……………	小菅陽子……………	五四
109	玄奘の菩薩戒——『菩薩戒羯磨文』を中心に……………	吉村誠……………	五九
110	智周・如理の相承に関する問題……………	多田修……………	六五
111	澄觀における法性と仏性……………	張文良……………	七〇
112	法蔵の華嚴教学と如来藏思想……………	大井和也……………	七六
113	『大乘義章』に見る円融思想……………	北塔愛美子……………	八〇
114	迦才『浄土論』における「本為凡夫兼聖為人」について……………	松尾得晃……………	八四
115	浄土教と戒……………	龍口明生……………	八八
116	智旭と智円——『首楞嚴經』註釈の比較に焦点を当てて……………	岩城英規……………	九七
117	智顗の衆生觀に関する一考察 ——『維摩經』觀衆生品の「三十喻」解釈を中心に……………	塩入法道……………	一〇三
118	天台智顗「秘密不定数」創唱の意図……………	張堂興志……………	一〇九

142	141	140	139	138	137	136	135	134	133	132	131	130	129	128	127	126	125	124	123	122	121	120	119		
『歎異抄』における「往生をとぐ」という表現について	「親鸞教義に於ける『往生論註』性功德積の意義	親鸞における横超の考察	初期真宗の教団指導者像	親鸞における逆謗闡提論	垂名示形論再考	『歎異抄』第二条の構造について	真宗伝道に関する一考察——文化的自己観に基づく理論的枠組み——	親鸞聖教にみる用語上の特色——旧訳から新訳へ——	親鸞の仏身論は「基体説」ではない	『五部心観』における五相成身観——日本密教との関連性——	頼宝撰『教眼鈔』考	済暹における『釈摩訶衍論』解釈——不二門解釈をめぐって——	親鸞の仏身論は「基体説」ではない	南嶽懷讓の研究	覚範慧洪に対する評価——『人天眼目』への引用を中心として——	源信記『菩提心義要文』の散逸部分に関する考察	——高山寺所蔵の院政期写本に基づいて——	中古天台における始覚法門	金沢文庫蔵『往生裏書』について	最澄の円機の使用と天台教学受容の連関について	天台大師における「衆生」について	小善成仏と三因仏性	大宝守脱の己心釈	日意(泰芸)所伝の天台学	天台における内熏自悟の解釈について
原田哲了	網代豊和	岡崎秀磨	黒田義道	高瀬大宣	赤渕弘祐	佐々木覚爾	長岡岳澄	門川徹真	宇野恵教	豊嶋悠吾	千葉正	田戸大智	小早川浩大	松原良樹	小山昌純	桃尾幸順	上杉智英	本間孝継	木村周誠	勝野隆広	潘哲毅	渡辺麻里子	柳澤正志		
二八	二四	二〇	二〇六	二〇三	一九	一九	一八五	一九	一七	一五	一六	一五	一五	一五	一四	一四	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	

156 155

Karika-purāṇa にみられるサティー伝説
ジャイナ教の行伝説話における天輪聖王

前田知郷
山畑倫志

八六三
八六八

日本学術会議だより	八五九
情報提供のお願い	八五八
研究発表および論文掲載・利用に関する規則	八五五
掲載されなかった諸氏の発表題目	四九三・六九六・九二〇・二二〇・二二二
会則・役員名簿	三〇〇
学会誌編集査読委員会規則	二九八
訃報	二九七
弔辞	二九二

154 153 152 151 150 149 148 147 146 145 144 143

版橈晃全撰『僧譜冠字韻類』所載の「道元伝」考	吉田道興	三四
『正法眼蔵』「仏性」巻における「仏性」の意味	石井清純	三三
鈴木正三における「経済倫理」について	笠井哲	三三
法然上人二十五霊場と大坂講	山本博子	二四
日蓮宗の宗号をめぐる意識について		
——寛政年間岡山藩での論争を中心に——	坂輪宣政	二五
清沢満之における現在安住について——その時間的側面に関する考察——	西本祐攝	二五
仏教図像の表現と理論	真鍋俊照	二六〇
『三國毘尼伝』にみる近世真言律の特徴について	藤谷厚生	二七〇
興福寺蔵『観菩薩三十講表白』について	多川文彦	二七五
叡尊における戒理解の特異性——特に在家仏教徒のために——	大谷由香	二七九
明恵の顕密観——五秘密与五聖同体説を中心に——	野呂靖	二八三
河内国壺井通法寺に就いて——羽曳野市通法寺址の隆光墓碑に因んで——	古賀克彦	二八七

157	日本で発見されたオリヤー語の『マハーバーラタ』について.....	Shobha Rani Dash	八七三
158	マイトラヤーニー・サンヒターにおける <i>ātas</i> と <i>dīva</i> の使用法	天野 恭子	八七七
159	Veda 文献における <i>śam-sarj/sj</i> の語義について	笠 松 直	八八三
160	放牧の無事を祈願する Yajurveda のマントラと Rgveda VI 28.7	西 村 直子	八八九
161	Atharvaveda XIII 2.2	中 村 隆 海	八九四
162	Pāli <i>thīna-middha</i> - 「昏沈・睡眠」, <i>Amg. thīnagiddhi-thīnaddhi</i> - ʼ Vedic <i>mardh/mrdh</i>	阪本(後藤)純子	九〇一
163	ジャイナ教古聖典と Dhammapada	渡 辺 研 二	九〇〇
164	遍是宗法性について.....	上 田 昇	九〇八
165	シヴァ教再認識派の仏教論理学派批判		
	—— 想起と知識の自己認識性をめぐって ——	川 尻 洋 平	九一三
166	『自性』の特異性——『俱舍論』に表れる説一切有部の教義学上の基礎概念——	齋 藤 直 樹	九一〇
167	律蔵成立問題に関する現在の状況	佐 々 木 閑	九一六
168	プラジュニヤーカーラグプタの他我論	小 林 久 泰	九四三
169	タイ所伝 <i>Pamāsa-jāṭaka</i> 中の <i>Sutadhana-jāṭaka</i> について	茨 田 通 俊	九四八
170	初期仏典に見られる常住論、断滅論、無因論、及び縁起説の立場からの批判	仲 宗 根 充 修	九五三
171	『阿毘達磨俱舍論』における ' <i>usūra</i> '	室 寺 義 仁	九五八
172	『六度集経』第81話「常悲菩薩本生」と『般若経』の異相		
	—— 三十二相八十種好を手がかりとして ——	伊 藤 千 賀 子	九六四
173	『法華経』はなぜ排他的差別的言辞を含むのか?	久 保 継 成	九七〇
174	シャーキヤブツディのアポーハ論解釈の一面について.....	岡 田 憲 尚	九七六
175	梵文長阿含の <i>Tridandī-Sūtra</i> について	松 田 和 信	九八四
176	『中論』における無自性をめぐる五種の探求 (<i>pañcadhā mīgyamāna</i>)	小 澤 千 晶	九八八
177	パーリ律 <i>Nissaggiya</i> 28 と雨季定住生活後の布の贈与について.....	藤 本 有 美	九九三

178	『現觀莊嚴論』における173行相	谷口富士夫	九九
179	Pāṇini-Sūtra 3.1.123 に挙げられるヴェーダ語の gerundive 語形について	尾園 絢一	一〇四
180	paramia (波羅蜜) の語源・語義について	阿 理 生	一〇一
181	初期アビダルマ仏教における「我」の同義語について	齋 藤 滋	一〇七
182	唯識思想における増益と損減について		
	——三性説との関わりを中心として——	薊 法 明	一〇三
183	Tatvasaṃgrahapañjikā における Śālistambasūtra	藤 井 真 聖	一〇七
184	amṛdahā/amṛtāḥ 銘像は果して阿弥陀仏を表すに非ざるか		
	——ガンダーラ彫刻の一碑銘の解釈をめぐって——	岩 松 浅 夫	一〇六
185	Bodhibhādra の Saṃdhisambhāraparivarta について	望 月 海 慧	一〇三
186	パリッタ儀礼に見られる deva の考察	亀 山 健 志	一〇八
187	ニカーヤにおける菩薩誕生記事の問題点	天 野 信	一〇五
188	中期中観派における自性 (svabhāva) 解釈		
	——rang bzhin と ngo bo nyid の用例を中心に——	那 須 真 裕 美	一〇七
189	経量部をめぐる諸問題(2)	原 田 和 宗	一〇三
190	四随相と無限遡及の過失	那 須 良 彦	一〇七
191	『中辺分別論釈疏』の再校訂のために——第三章真実品を中心に——	金 才 權	一〇七
192	不二不異説の系譜——アビダルマから唯識へ——	那 須 円 照	一〇六
193	〈無量寿経〉における仏の〈威力〉について	弘 中 満 雄	一〇八
194	『楞伽經』における分別事識	鄭 有 植	一〇五
195	『十地經論』における六相について	金 京 南	一〇九
196	『禪定灯明論』漸円派章における「浄居天子会」の引用について	宮 崎 泉	一〇六
197	法進の仏教観	西 野 健	一〇〇
198	ケードゥプジェの PV III 338-340 の解釈について	村 上 徳 樹	一〇四
199	rang gi mtshan nyid kyi grub pa 再論	福 田 洋 一	一〇三